

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 5月 23日

【評価実施概要】

事業所番号	0170501993		
法人名	有限会社ライフアート		
事業所名	グループホーム福寿荘Ⅱ		
所在地	札幌市白石区北郷4条12丁目3番35号 (電話) 011-879-5580		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成19年12月6日	評価確定日	平成20年5月23日

【情報提供票より】(19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <input type="radio"/> 平成 <input checked="" type="radio"/> 15年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 12人, 非常勤 6人, 常勤換算	14.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	2階建ての	1~2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	12,000~17,000 円	
敷金	有 (円)	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有 (195,000円) <input type="radio"/> 無	有りの場合 償却の有無	有 / <input checked="" type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,400 円	

(4) 利用者の概要(12月6日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	0	要介護2	1		
要介護3	5	要介護4	4		
要介護5	8	要支援2	0		
年齢	平均 85.4歳	最低	73歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みどり内科クリニック
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所はバス停から程近い場所に立地し、全体的に明るく温かみのある建物である。「一人を大切に・ささえ合う心・安心して暮らせる社会づくり」という法人理念が開設時から職員に継承され、全職員が共有しながら利用者のペースを尊重したケアサービスを実践している。また、利用者・家族の状況に合わせた介護計画を作成し医療機関とも連携を取り、24時間受診可能な体制を整えている。また、ターミナルケアにも対応しており、今後も適切な医療を受けながら利用者がその人らしく生活することが期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>介護計画の見直しについては、利用者の状態に応じて見直しを行っている。また、緊急時の手当てに関しては講習・訓練を繰り返し、注意の必要な物品の取り扱いについても保管場所を取り決めるなど、前回評価での課題を見直し、改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員一人ひとりが自己評価を行い、全員で話し合いながら検討して具体的な改善に取り組んでいる。また、外部評価の結果を更なる質の向上に活かしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>利用者家族・地域住民・地域包括支援センター職員等を構成員とし、定期的に運営推進会議を開催している。会議では様々なテーマを掲げて話し合い、意見交換を行っている。また、そこで出た意見を事業所の運営に活かし、質の向上に努めている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>月に1度家族に便りを送付し、利用者の暮らしぶりや健康状態等について報告している。また、家族との連絡ノートを活用し、気軽に意見・要望等を伝えられるような工夫をしている。また、家族の来訪時や運営推進会議の場においても意見等を話せるような雰囲気づくりに努め、事業所の運営に反映させている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p>
重点項目④	<p>町内会に加入し、地域の行事に参加したり地域住民に介護予防教室を開催するなど、地域との交流に努めている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人を大切に・ささえ合う心・安心して暮らせる社会づくり」という法人理念を掲げており、地域において利用者がその人らしい生活を継続する支援体制を整えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者指導の下、毎日の申し送り時やカンファレンス時に理念を確認し、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、積極的に行事に参加したり地域住民を対象とした介護予防教室を開催するなど、地域との交流に努めている。	○	今後も地域住民との交流に取り組み、地域に溶け込んだ生活の実現が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりが自己評価を行い、全員で話し合いながら具体的な改善に取り組んでいる。また、評価結果を事業所の運営に活かし、更なる質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・地域住民・地域包括支援センター職員等を構成員とし、運営推進会議を開催している。会議では様々なテーマを掲げ、意見交換を行っている。また、そこで出た意見を事業所の運営に活かし、更なる質の向上に努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催のグループホーム管理者会議や研修等に参加する際に担当者と連絡を取り、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度家族に便りを送付し、利用者の暮らしぶりや健康状態等について伝えている。金銭管理についても定期的に家族に報告している。また、遠方に住んでいる家族には電話連絡時にきめ細かな報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との連絡ノートを活用し、気軽に意見・要望等を伝えられるよう工夫している。また、来訪時に家族が何でも話せる雰囲気づくりに努め、意見等を受けた場合は事業所の運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等があった場合は時期を検討し、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。また、家族には毎月送付している便りや連絡ノートにて伝えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や段階に応じて、系列事業所と合同の内部研修を定期的に行っている。また、市やグループホーム協議会主催の研修会に参加する機会もあり、職員は積極的に受講している。受講後は報告会で内容の共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国のグループホーム間のネットワークを築いており、他事業所との相互見学や研修会開催を通じて協働し、人材の育成や質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望時に職員が自宅や病院に出向いて面談したり、事業所に見学に来てもらって本人・家族と話し合い、顔馴染みになってからの入居となるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する人・される人の枠を越えて喜怒哀楽をともにし、絆を大切にしながら関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者との日々の会話や表情などから意向・希望の把握に努めている。また、困難な場合は家族や関係者から情報を収集し、生活歴を考慮しながら本人本位となるよう検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人・家族の意見や要望を採り入れ、全職員でアセスメントやカンファレンスを行いながら介護計画を作成している。また、作成した介護計画は家族に説明している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族と話し合いながら3ヶ月に1度の定期的な見直しを行うとともに、利用者の身体状況の変化に応じて見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして早期退院や重度化・終末期に向けての支援や、来訪者の宿泊対応など、柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医への受診支援を行っている。また、月に2回協力医療機関の医師による往診があり、24時間受診可能な体制を築いている。さらに、事業所には看護職員もおり、利用者の健康状態を相談できるよう工夫している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化・終末期に向けた指針について本人・家族に説明し、同意を得ている。ターミナルケアも実践しており、利用者・家族の意向を確認し、医師の指示に従いながら柔軟に対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報を他言しないことを、職員は当然の遵守事項として対応している。	○	日々のケアサービスにおいて他の利用者の前で排泄確認をすることがあるため、今後は利用者の誇りを傷つけることのないよう改善に向けた取り組みが期待される。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調や状況に応じ、一人ひとりのペースを大切にして職員は見守りながら支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を採り入れた献立を作成し、一人ひとりの力量に応じて職員と一緒に作業をし、食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じた入浴支援を行っている。また、入浴を嫌がる利用者には職員は声かけや対応を工夫して支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の生活歴や力を把握し、献立表の筆書きや化粧など、一人ひとりに合った役割や楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や日光浴など、日常的に外出できるよう支援している。また、家族同行による遠方への外出支援も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニット間の出入り口に鈴を設置して工夫し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。また、利用者が外出しそうな様子のおきには見守り、安全面に配慮しながら支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、利用者も参加した避難訓練を実施している。また、防火管理者指導の下でポイント検や避難経路の確認を行っている。	○	今後、地域住民・警察署・消防署から協力が得られるよう働きかけ、緊急時に備えて体制を整えることが期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を毎日チェック表に記録しており、職員は情報を共有している。また、利用者の健康状態に応じて調理方法を工夫し、栄養バランスについては主治医に相談しながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には和室が設けられ、家庭的で明るくゆったりとした雰囲気である。また、花や装飾品により季節感や生活感を採り入れ、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた馴染みの家具・仏壇・装飾品などが持ち込まれており、本人が安心して暮らせるような空間となっている。		

※  は、重点項目。